

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第 22 号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail info@kouhoku-saibora.net

2014 年 7 月

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

*** 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるにお力を貸して下さい。**

各タスク動き出す 今年区としっかり協働 会則改訂委員会も発足 一多くのご意見を

今年度方針が決まり、各タスクの活動が始まりました。連絡会の活動の中心を作るのはタスク活動です。まだ所属が決まっていない方はご連絡ください。

あわせて毎年総会で論議された会則についても検討委員会が発足しました。活動内容の進化や時代の変化にそって柔軟に対応できる組織は健全です。当連絡会もそのようにありたいと思います。会員の方からの多くのご意見をお待ちするところです。定例会に参加できない方、こんなときこそメールが役に立ちます。メールが苦手な方はファクスを事務局までお送りくださっても結構です。

区との協働

今年のタスク活動で特徴的なのは、シミュレーションに区との連携を強くするための取り組みを掲げていることです。発災時には区との連携がしっかり取れなければ、現場の声や被災者の要望に適切に応えることは出来ません。

拠点との連携

もう一つ大事なことは拠点との連携です。どこも拠点との関係作りは苦労しているようですが、それぞれの役割は違います。災害ボランティアセンターの役割は拠点のバックアップと言えます。それを理解してもらうためにもこちらからの積極的な働きかけがあって良いでしょう。発災を想定して、ボラセン予定地から拠点まで歩いて行き、あらかじめ連絡を取っていた拠点役員さんと懇談する実践をしている都筑区の例は大いに参考にしたいと思います。

自分と家族の安全確保を徹底しよう

事前準備がどこまで通用するか分からないのが実際の災害時です。だからこそ準備が必要なのですが、どうなっても対応できる柔軟性も必要です。これほどの災害が起きるとは思ってもいなかった

東北各地では災害ボラセンも何も無い仮住まいから始まりました。

(下は 2011 年 3 月気仙沼災害ボラセン)



私たちに求められるのは、第一に自分自身と家族の安全確保（それなくしてボラセン参集はあり得ない）第二に柔軟な対応力です。何が被災した市民に必要なのか、どうすれば良いのか、マニュアル頼みにならない心が被災した人々を救えるのだと思います。そのための訓練と討論を重ねて行きましょう。



気仙沼市総合体育館避難所入り口を覆い隠すように張られた安否確認のビラ

編集部 宇田川

第3回定例会報告

平成26年6月18日(水) 午前10時～

港北区福祉保健活動拠点多目的研修室

出席者：井上会長(港北区ボラ連)、白井副会長(個人)、国際救急法研究所、富士塚ボランティアグループ、港北区ボラ連、港北国際交流ラウンジ、子育て支援拠点どろっぷ、一般社団法人ペガサス、仲手原マザークラブ、個人8名、丸山(区役所)、池田、山本、松本(区社協)、合計20名

司会=白井副会長 記録=和田、鈴木

※ 区役所地域振興課課長丸山さんより災害に対しての意識を持って体調管理をしてくださいと挨拶がありました。

1 前回検討事項について

* 今年度方針について(改訂)

役員会で検討、訂正し定例会にて活動方針が承認された。連絡会ニュース21号に記載した。

* 通知文の送付について

メール等での送付にせず、25年度同様郵送にて届ける

* 会則の改訂について

改訂委員会を設け進めていく

スタッフ 井上、付岡、宇田川、生井、古川

● 会則の改訂について意見等があれば事前に案を出しても良い

2 26年度タスクメンバーについて

PRと広報→井上、宇田川、付岡、室伏、古川、山口、野田、

シミュレーション→山本、杉浦、古川、中島、鈴木、坂上、木村、

イベント→白井、小澤、原、山口、高見澤、粕谷、松居、高梨、和田 (下線は兼任者)

3 各タスクからの進捗状況報告

☆ PR→自治会の運営委員長等にインタビューやDブロックに参加

☆ シミュレーション→昨年度の反省を踏まえてハンドブックの改訂に力を入れたい。

区役所との連携を計りながら進めて行きたい

☆ セミナー→昨年度と同様被災地の方の講演等を考えている

施設見学→日帰りで見学ができる場所を探している。

4 各タスク毎に話し合い、発表

☆ PR→パネル2枚作成。リーフレット、登録

簿、名刺を印刷する

連絡会の紹介

らくらく市に7月から関わり参加したい

☆ シミュレーション→リーダー山本、書記杉浦
12月シミュレーション区役所参加予定
マニュアル修正作業をする。

☆ イベントタスク→リーダー白井、書記小澤
イベント→昨年度の反省から今年度はセミナーと施設見学2本立てで行きたい。

4 その他

1) Dブロック連絡会報告

参加者 宇田川、小澤、山本(社協)

☆ 都筑区→災害の時のマニュアル作りに苦戦されている。

☆ 青葉区→協定書が結ばれた

青葉区のシミュレーションには区役所が参加された

2) 高田地区嶋コーディネーターさんより

10月に行事があるので災ボラにも協力依頼があるかもしれない

今後定例会にも参可する予定

以上

「遺体 明日への十日間」を見て

釜石市の安置所での事実を映画化した「遺体明日への十日間」の感想を頂きました。

青年もその場に立ち竦んで座ってしまった位に大きな揺れが起きた3.11大地震。私は新宿のビル街で体験しました。

報道されました現地の様子は、想像以上の被害に驚くばかりでした。それ以上にこの映画を見て、現場の悲惨な姿は、心が痛み、非常に苦しくなりました。今迄報道されなかった状況をとらえた実態は、絶するものがありました。

自分の身の廻りのことだけでいっぱいの人が多いなか、多くの犠牲者の最後をお世話して下さる姿を、言葉では言い尽くせない頭のさがる思いです。

いつ、どこで起こってもおかしくない日本では、その時、何が出来るか、日頃からしっかり考えていかねばと痛感しました。

心が伝わる人の命の最後に、言葉をかけて、少しでもきれいに、安らかな思いにさせてあげる心遣い。一人でも多くの方が、出来る事を少しでも協力し合い、心の通じあうボランティアの大切さを改めて考えさせられました。

(鈴木恵子)

横浜災害ボランティアネットワーク

一ク会議総会 報告

6月25日(木) 横浜災害ボランティアネットワーク会議総会に連絡会から3名出席しました。

事業報告のひとつとして、3月1日(火)に横浜市・横浜災害ボランティアネットワーク会議・横浜市社会福祉協議会の三者を締結者とする

「横浜災害ボランティア支援センター設置・運営に関する協定書」を新たに締結したことが報告されました。

3号議案会則改正「代表の諮問機関として顧問を設置する」については、過半数に及ばず否決されました。港北でも会則の改訂作業が始まろうとしています。災害ボランティアや会の方針・目標をしっかりと理解して取りかかれないと多くの問題が出てくると思われました。

4号議案役員改選 長い期間代表としてお力を注いでこられた吉村氏に代わり河西氏(つるみ災害ボランティアネットワーク代表)が選出されました。

港北区連絡会ニュースは毎月発行(編集者のチカラ大)されていますが、市ボラネットのニュースレターは以前年4回発行されていた時期もありましたが、HPの充実ということから、現在は年2回の発行になっています。「しかしHPは会員全員が目に来るとは思われないので、紙媒体は大切だ」という意見が出され、運営委員会で、HPのさらなる向上とニュースレターの発行についての検討がされることになりました。

平成26年度 年間スケジュール

10月 災害ボランティアセンター図上シミュレーション訓練

12月 支援者向けコーディネートスキルアップ研修

1月 市災ボラセンター立ち上げシミュレーション訓練

2月 全区対象の区災ボラネット連絡会開催
ブロック別連絡会年数回開催

会員向け研修会で大島の報告

「大島社会福祉協議会災害ボランティアセンターでの実践」

講師：東京ボランティア・市民活動センター
加納祐一氏

細部にわたり大島土砂災害時の様子が大変よくわかり、情報発信の重要性を改めて認識しました。大島町社協は発災後すぐにフェースブ

ック(FB)を立ち上げ、さらにホームページ(HP)で基本情報を確認できるように工夫したそうです。FBでは新しい情報が書き込まれ、古い情報を探すのには不向きなため、HPで基本情報(ボラセンの連絡先や参加ボランティア数など)を載せ、使い分けしたそうです。マスコミ対応に役立つお話でした。(付岡)

Dブロック会議に出席して

6月15日(日) 青葉区社協を会場に第二回Dブロック会議が開かれました。情報交換を目的とするブロック会議ですが、活発な意見交換がされました。

青葉区では各拠点に対し災害ボランティアセンターの役割のチラシを送っています。区との協定が役立っているのだと思います。

都筑区からは災害ボラセン運営訓練の実施要領を頂きました。タスクの参考になると思います。

4区の共通課題として拠点との関係作りの難しさでしたが、都筑区のように災ボラ側からの積極的な働きかけが大切だと思われました。その際にはあちらにも役立つ何かを提供できなくてははいけません。その点で発災時の現場情報が拠点から直接災害ボラセンに入るような仕組み(都筑区)は相互の意識改革に繋がるものと思われました。

また災害ボラセンの運営の知恵を知りたいとの声から、「クロスロード災ボラ編」を作る委員会も出来ました。

参加された小澤さんからの感想です。

「有事の際はこの方たちとタッグを組む！」最初の感想です。

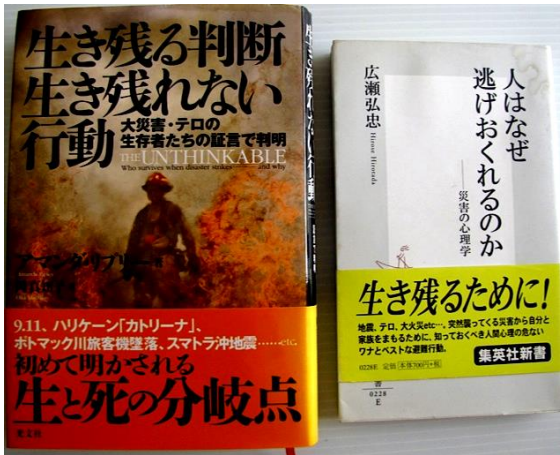
地震か、集中豪雨か、はたまた豪雪による被害か。災ボラセンターを立ち上げるにあたりどのような被害に見舞われるのかは分かりません。横浜市北部広域で被害が発生した場合は4区のそれぞれに災ボラセンターが開設されるでしょう。もしくはある狭い地域での被害によりどこかの区でセンターが立ち上がり、我々がその応援に向かう場合も有り得ます。またその逆しかり。

各区災ボラそれぞれの置かれている状況は異なっても、いろいろな問題を解決してゆく知恵や技を知ることができるのは幸運です。Dブロックの会議の出席団体は同士だと感じました。これから「顔の見える関係」を築くことの大切さを忘れずに準備を進めていきます。でも何よりもどの区でも災ボラセンターの開設が行なわれないことを祈っています。

役に立つ災害本

人はなぜ逃げおくれるのか

広瀬弘忠 集英社新書



2003年2月に韓国大邱で起きた地下鉄放火事件の際、車内に煙が立ちこめてきたのにあたりを見回すものの、なにも行動に移さない映像が人々を驚かせました。しかしこのような場面は日常ありふれているのです。日本では折角導入された緊急地震速報が出た際にやはり殆どの人が何もしていません。防災対策に心理学が必要な所以です。

これは人に「正常性のバイアス」があるからだと言われます。「人の心には予期せぬ異常や危険に対して、ある程度鈍感に出来ているからだ」と著者は説明します。でないとなんとも些細なことにも反応して心が疲れてしまうための安全装置だということです。しかしその安全装置が逆に危険予知を妨げてもしまいます。

安全な環境を作ることに精を出した結果、逆に危険を察知したり、回避する能力は低下するという皮肉な結果をもたらしています。まずはこの本を読んで、非常時に私たちはどのような心理状態になるのかを良く知った上で、危険に対処する能力を鍛える方法を考える必要があります。最近の子どもは危ないことは全くさせてもらえないまま大きくなっていますが、それで災害大国日本で生き延びられるだろうか、と心配になります。

その他「パニックという神話」だとか「生き延びるための条件」など興味深い章が沢山あり、災害ボランティア必読の本と言えます。

本書は2004年刊ですが、実際の災害から生き延びた経験者に聞きながら教訓化した本に「生き残る判断生き残れない行動」2009年光文社刊もあります。

会員紹介

「横浜北部失語症友の会」

港北区を中心とする失語症をもつ方たちの会です。毎月1回、港北区福祉保健活動拠点で会合を持ち、会話やゲームなどによる言語リハビリを通して、会員相互の親睦を深めています。

失語症とは、脳卒中や事故によって、言葉をつかさどる脳の部位が損傷を受けたために、言葉を操る能力に障がいが残った状態を言います。損傷の受け方によって障がいのタイプや程度は様々です。発声器官に障がいがあるが上手く話せない（運動障がい性）構音障がいや、心因性的原因から声が出ない失声症などと混同されやすいですが、これらは主に「話す」ことだけの障がいなのに対し、失語症は「話す」「聞く」「読む」「書く」の4つのことばの機能すべてに何らかの障がいが見られます。

言葉によるコミュニケーションが難しいので、災害などの緊急時は特に、例えば避難所などで、情報のやり取りが困難になります。けれども、健常者側が失語症を理解し、失語症者に歩み寄った仕方をとることにより、かなりコミュニケーションが取れるようになります。例えば絵や図は有効です。また、これも誤解が多いのですが、仮名の50音表は一般に役に立ちません（仮名を読むのが難しいためです。仮名より漢字の方が理解しやすいです）

できるだけ多くの人に失語症を理解していただき、災害時などでもご協力いただければと考え、このたび入会させていただきました。「失語症の人と話そう：失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために」（和音編、中央法規刊）〔横浜市立図書館蔵〕など、失語症に関する本も数多くありますので、この機会に失語症について知っていただければ幸いです。

（文責：同会ボランティア 室伏俊明）

編集後記

- ☆ 今号は多くの会員のご協力が頂きました。今後もよろしく願います。（宇田川）
- ☆ 先月はぎっくり腰と耳下腺炎で動けませんでした。運動しないと体は錆び付きますね。（山本）
- ☆ 今年も各地で集中豪雨が起っていますね。港北区でもいつ起こるかわかりませんので皆さん常に気象状況には敏感になって行動しましょう。（野田）

*編集の山口さんはケガのためちょっとお休みです。